

『みいけ』に思う

弁護士 角銅立身

「三池労組」の存在を知ったのは、昭和三十八年十一月九日の三川

は、「三池労組」の中でも三井田川や三井山野とは違った労働組合だと思われ、昭和三十三年の春、私が古河鋳造大峰鋳造所(田川)で保安技術職員時代でした。

機関紙「みいけ」を知ったのは「三池労組」が「安保と三池」として合理化反対をたたかっていた三十五年の夏でした。

三池鋳造所の囲みの中からヘリコプターで脱け出て、スクリーン(夏期学習)に参加した職員の間で、後に「みいけ」を執筆することになった「故意責任」と題する資料を集めはじめました。



H氏から現地の状況をお聞きした時、機関紙があること、その内容を知らなかった。

私は、技術者から弁護士へ転職するために司法試験の受験勉強に明け暮れており、松戸市内の中央大学白門会司法会計研究室に同僚と労働問題、特にロックアウトと賃金請求権について論じたことを覚えていました。

特に、三池労組が完全勝利した唯一ともいえる上村裁判の第一審判決は、弁護士長の佐伯先生、さらに藤本先生らが出席できなかった。

米屋の店頭から国産米が姿を消し始めた。あつてもなじみの客にしか売らないとか、それも輸入米と混ぜ合わせるとか、コメどころの東北地方でも灯油と一緒に買おうが条件、という話も聞いた。米屋の自販には、「故障中」の張り紙がしてある。生協の店のコメ棚もからっぽだ。



コメ不足

◎

ところが、あるところにはあつた。急輸入されたタイ米の一部にはネズミやゴキブリの死体や針金だ。だから値段は倍近く、あきなどの異物が入っていたという。たかが十キロで八千六百円、のちに――。

私人(？)だったものですから裁判所の前庭で報告したときは、感激のため絶句するなどのことがあったのに、『みいけ』のニュースでは素直らしく読み易い記事になっており感謝したものです。

私が『みいけ』を手に入れたのは三十九年、『みいけ』から得た貴重な運動の実績を今後活かしていくことをお誓いします。筆者は、田川市栄町二一 角銅法律事務所

私と三池

香川 渡辺 一幸

六九年に「三池にまなび」に参加して以来、CO患者・遺族を支援する会の機関紙『みいけ』を二十五年来拝読してまいりました。

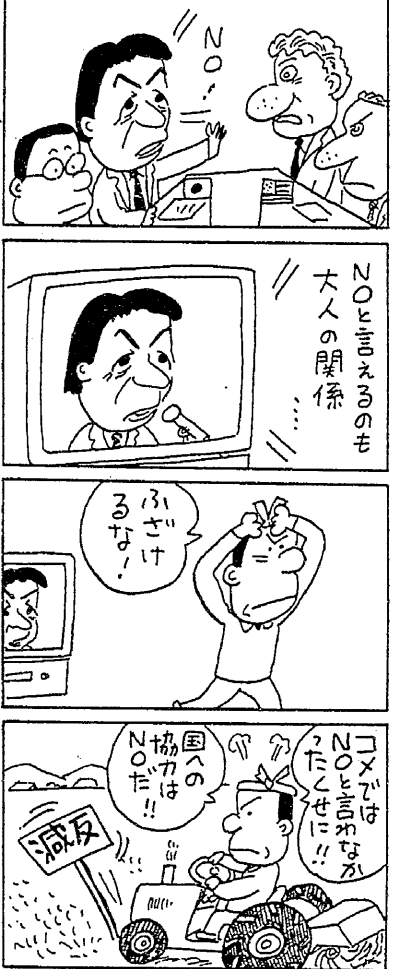
四十六年の歳月は、私の年齢と同一です。産業構造の変化によって、一般労働者の犠牲の中で次々と新しい産業の中心が出来てきましたが、今や国際化した産業構造の中でいかに問題をかかえています。

私も十六年前、総評第一回日中友好訪問団で訪中してから、国外の知人づくりをはじめ、労働運動も国内問題だけを考へての行動ではとてもやっていけないと思つて、いかに問題をかかえています。

今後は世代にいろいろな意味でつづきをつなぐようにしなければならぬと思つています。(筆者は大川郡引田町引田一九二一にお住まいです)

あほだら

えんやな街



『みいけ』によせて

町 佳郎

取り出して見る機関紙の片隅にすぎゆきのわが歌の載りいる。聞いたら日々のくらしに機関紙のつねありき道しるべなりきCOの家族のつづる悲愴なるくらに胸ふさがりし記憶。帽灯の明りに読める機関紙に合理化反対の太文字ありき。年々の賃上げの低きにいきどおり歯がみして長く耐えて来にけり。脱衣所に配らるる機関紙読み終えて期末手当の行方語り合ひたり。腕組みて共に労わんその歴史を語り合ひたり。『みいけ』の四十六年の量。汚れたるまま縁側にねむりいる子と蝉の声と遠くに記憶に生活に追われるれば出でて働きぬ小兵なる妻の皺も増えたり。

止めることは

できないこの思い

千葉 津久井 清

《二〇二二》

勝手な解雇をストップ

― 労組や弁護士 ―

二十九年前、私が大学二年の頃、友人と二人で三池労組を訪ねた。奥の部屋では資本論の学習会、そして夜、炭住での座談会にも出席させていただいた。「第二組合に行けば何万円も増えるが、三池労組は私の生き方だから……」という、家族みんなの明るさが今も印象に残っている。



この思いを止めることはできない。追伸、またいつか三池に……と思っています。三池労組会館建設費を助けて下さる。三池労組(筆者は鎌倉市佐津間二六にお住まいです)

今も続く団結旅行

― 元・原地域分会 ―

浦川 秀夫

大牟田市の隣町、高田町に原地域分会があった。三池闘争、CO闘争、合理化に次ぐ合理化。オルグ、まなび会との夜を徹しての交流。いろいろな経験の中から、労働者は一人一人では弱い。団結しなければ闘えないことが分かった。そのようなかで、地域分会の団結旅行が話題になり、積立を始めて、初めての団結旅行が昭和四十二年に実現。阿蘇から湯布院で、一番印象に残っている。阿蘇山の西口から東口へ行くのに、火口の縁を歩き、先へは危く行けず引き返した。皆飲んでいたのに、よく火口にひっくり返らなかつた。

東口で遅い昼食。湯布院行きバスの時間を確保したら、最終の出発時間。昼食どころではない。遅れたらどうなっていたか。積立を続けてゆくと、飛行機から見る大空は、NHKの連日、元・地域分会長の田畑千尋さんは現在もリゾーグ。入院、不幸、その他、何かあったときは田畑さんに伝え、田畑さんが全員の連絡、退職者の会とは別に親睦を続けている。

主婦会では、主人を亡くされた方々もいるが、全員一人も欠けずに、いつの間にか嫁の立場から姑の立場になった。振り返ってみると二十八年。毎年近くの温泉で一泊二日の新年会を催し、その年の団結旅行を決める。今年は日光方面で、和気あいあいとしたものになった。夜遅くまで交流を深めた。

旅行の成功を支えて下さった皆さんありがとうございます。組合活動が私たちの心の中に生き続け、一歩一歩前進することを信じています。

(ある年の団結旅行で)

